

登場人物の行動や気持ちを想像しながら読みましょう。

ごんぎつね

新美 南吉

1

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

①だん落先頭は
一文字分あける

むかしは、わたしたちの村のちかくの、中山というところに小さなお城があって、中山さまというおとのさまが、おられたそうです。その中山から、少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、一人ぼっちの小ぎつねでも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりして入っていてもほりちらしたり、菜種がらの、ほし

②文章の統一として
漢数字を使用する

夜でも昼はたけへの火をつ

5



キーワード
しだ

キーワード
菜種(菜の花のこと。)

1 ごんぎつね



けたり、百しよう家のうら手に
つるしてある
りとして、い
ことをしまし
ある秋のこ
日雨がふりつづいたその門、三
んは、外へも出られなくてあな
の中にしゃがんで、ふした。
雨
として
空はか
の声が
した。
ごんは、村の小川で、
で出て来ました。あたり

④名前のまちがい
× どん ○ ごん

③漢字のまちがい
× 門 ○ 間

⑤読みがなのまちがい
× おかわ ○ おがわ

5

キーワード
とんがらし
(とうがらしのこと。)

キーワード
百しよう家
(農民の住んでいる家のこと。)

キーワード
もず
(秋にするとい声で鳴く、スズメより少し大きく、くちばしがするとい鳥のこと。)

15

10